

公民館だより なかがわ

第489号

令和5年8月1日
発行 中川地区公民館
TEL.Fax : 679-2501

【一般講座】

「秋の寄せ植え」講座

日時：9月29日（金）
10：00～12：00 頃
場所：中川地区公民館前 駐車場（雨天時は公民館内）
講師：佐藤 淳史さん（蘭花園）
持ち物：園芸用手袋、花切はさみ、飲み物など、
汚れても良い服装（エプロンなど）
材料費：2,500 円
（つり銭のないようにお願いします）
対象：中川地区民
定員：先着 20 名程度
締切日：9月19日（火）
（※昨年作品です）



お申し込み先：中川地区公民館（☎679-2501）

8月・9月 行事予定



8/1(火) 市報・館報・福祉村だより
福祉村運動会代表者会議
8/2(水) 三者会・会長会・公民館運営協議会
活動交付金交付式
白石上山線薄沢永野間建設促進協議会
8/4(金) パソコンクラブ・防犯協会幹事会
8/8(火) 粋いき倶楽部（職員不在時間あり）
8/9(水) 一般講座「苔盆栽教室」
8/18(金) 福祉村運動会合同会議
8/20(日) ソフトボール大会
8/22(火) そば打ち教室
8/25(金) 防犯診断（権現堂地区）
8/29(火) ウォーキング（職員不在時間あり）

9/1(金) 市報・館報
三者会・森開公総会・会長会
公民館運営協議会
9/5(火) シニアクラブ研修（一泊二日）
※9/5(火)～9/6(水)職員不在になります。
9/8(金) そば打ち教室
9/13(水) 文化産業まつり代表者会議
9/15(金) パソコンクラブ
9/22(金) 粋いき倶楽部（職員不在時間あり）
9/24(日) 少年少女球技大会
9/25(月) 上生居堀切線・永野開拓線同盟会総会
9/26(火) ウォーキング（職員不在時間あり）
9/29(金) 市報・館報
一般講座「秋の寄せ植え講座」

グラウンドゴルフ愛好会

（月曜日） 8/7、21、28

詩吟教室 （火曜日） 8/8、22、29

ラージピンポン愛好会

（木曜日） 8/3、10、17、24、31

スポーツ麻雀愛好会

（木曜日） 8/17

（土曜日） 8/5、26

参加者募集

中川地区ソフトボール大会

日時：8月20日（日）8：20～
場所：中川地区公民館前広場
対象：中川地区に在住する中学生以上
（※消防団員は地区民に限らない）
参加料：無料

※詳しくは、地区回覧チラシをご覧ください！

中川シニアクラブ一泊研修会

日時：9月5日（火）～ 9月6日（水）
場所：男鹿半島周辺観光、秋田温泉宿泊
対象：中川地区民
締切日：8月7日（月）

※詳しくは、公民館までお問い合わせください！

休館日のお知らせ

8月14日（月）は休館日となります。
ご不便おかけいたしますが、よろしく
お願いいたします。

お知らせ

【敬老会について】

地区回覧チラシでもお知らせしておりますが、今年度より上山市の敬老会対象者が数え 80 歳以上の方となりました。これまでよりも 10 歳引き上げとなったことを受け、地区会長会会議の結果、「中川地区敬老会」は中止とし、昨年同様、対象者の方に敬老祝品を贈呈することになりました。敬老会を楽しみにしていた方々には大変申し訳ありませんが、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。敬老祝品は、9月中旬頃に各地区会から対象者の方へ届けられる予定となっております。

【中止のお知らせ】

「長寿まつり」

(養護老人ホーム蔵王長寿園)



『民生児童委員』 もっとも身近な相談相手です！



民生児童委員に相談してもいいかなと思った事はありませんか？こんな事相談しても大丈夫かなと躊躇してしまう事はありませんか？

民生児童委員は地区における身近な相談相手です。高齢者・障害のある方・子育て、介護生活の困り事などに対して必要な支援を行っています。そして、適切な関係機関との繋がりとなる役割を担っております。身分としては厚生労働大臣から民生委員法に基づいて仕事を任されている非常勤の地方公務員という扱いです。任期は一期3年です。

また、相談内容の秘密を守ることが法律上義務づけられています。

安心して、気軽に地区の民生児童委員にご相談下さい。



粋いき倶楽部



7月11日(火)に第3回粋いき倶楽部「軽スポーツ大会(ボッチャ体験・輪投げ大会)」が行われました。前半は、「ボッチャ体験」です。上山市社会福祉協議会より講師を派遣していただき、ボッチャの説明ややり方を聞いて実際に体験してみました。「ボッチャ」とは、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールをいかに近づけるかを競うスポーツで、パラリンピックの正式競技として行われています。今回は4チームに別れ、2チームずつの対戦で行いました。ジャックボールに一番近い場所にあるボールのチームが勝ちとなりますが、ジャックボールを動かすことでゲームの流れを変えることができ、頭を使いながら皆さん楽しく体験していました。

後半は、恒例「輪投げ大会」です。列をそろえると30点！肩に力が入りすぎてしまうのか、狙おうとするとなかなか入らなくなり悪戦苦闘でしたが、笑いあいの楽しい時間となりました。これからも、気軽にできて運動不足解消にもなるような軽スポーツを取り入れていきますので、多くの会員さんの参加をお待ちしております。



中川地区会長会合同研修会



行ってきました！

7月13日（木）～14日（金）中川地区会長会合同研修会が行われ、総勢12名の参加で新潟県内の視察に行ってきました。初日に訪問した豪農の館「北方文化博物館」は、酒田市の本間家に次ぐ、日本第2位の大地主と謳われた伊藤家が明治15年から8年がかりで建築した、建坪千二百坪に及ぶ豪壮な建物でしたが、その規模の大きさに驚くとともに、当時の面影をそのままに維持管理する大変さに関心するひと時でした。2日目は、弥彦神社参拝後、パノラマタワーから日本海を展望しました。小雨が降る中、直前までかかっていたというガスも晴れ、弥彦神社参拝の御蔭と感謝したところです。直前まで北陸地方で大雨が降るなど天候が懸念される中でしたが、初日は好天で2日目は時折小雨が降ったものの、大きな天候の崩れもなく無事研修会を終了することができました。



【一般講座】「みそ作り」



7月18日（火）石井惣治商店（十日町）の石井 茂治さんよりお越しいただき、一般講座「みそ作り」が開催されました。説明を受けながら作業開始です！初めに、麴をほぐして塩を入れ、朝から蒸してつぶしてもらった大豆に麴と水を入れて手で混ぜ合わせていきます。混ぜた分だけ美味しくなると聞き、皆さんもくもくと混ぜていました。石井さんよりアドバイスを受け、出来上がったみそを想像しながら一生懸命作業しました。保存の仕方や、食べられるようになってからの管理方法など、たくさん質問をして終了となりました。100日後の出来上がりが楽しみです。美味しいみそになりますように！



ウォーキング「山形市・野草園」



7月19日（水）第4回ウォーキング教室は『山形市・野草園』に会員15名の参加で行って来ました。梅雨明け間近の空の下で時々鳴いてくれる鳥のさえずりを聞きながら、ガイドさんの案内で植物の名前の由来や花の咲き始め時期、あと何日くらいで見頃になるなど、詳しく教えて頂きながら歩いて来ました。ガイドさんの話しがとても楽しく皆さんの笑顔がたくさん見れたのでとても良かったです。時には質問などを交わしながら楽しい時間を過ごす事が出来ました。時期が違う時にまた行って見たいと思いました。



おらほの中川〈地域の話題シリーズ 第百七十八弾〉

「昭和考、問わず語り（その30）」

前号では、陸軍内部の中堅、若手エリートが軍の改革に動き出した発端を申し述べましたが、本稿以降ではその盟約が具体化し、戦争に発展していく様子を述べたいと思います。

〈二葉会の発足〉

永田らは、帰国後、彼等に同調する幕僚たちと会合を重ね、昭和二年頃、その集まりを「二葉会」（ふたばかい）と名付けた。（その時期は、田中義一内閣成立前後の頃である。）

二葉会には、永田、小畑、岡村、東条英機（陸士十七期、太平洋戦争開戦時の首相）のほか、河本大作（昭和三年六月、張作霖事件を引き起こした関東軍の参謀）、板垣征四郎（昭和六年九月、柳条湖事件を引き起こし、その後「満州事変」へと拡大させた関東軍高級参謀）など陸軍中央の中堅幕僚二十人程度が参加していた。陸士十六期を中心に十五期から十八期までであった。

二葉会では、ことに長州閥の打破に力を注いだ。また国家総動員に向けた体制整備については、永田を中心に推し進められ、初代動員課長に永田が就任、また第二代動員課長には、永田の腹心であった東条が就いた。

さらに、バーデン・バーデンの会合の頃にはそれほど意識されていなかった満蒙問題に関心が向けられるようになる。

会合では、張作霖爆殺事件への陸軍の対応、河本の処分への対応なども、何度か話題になっていた（岡村寧次日記）。このような満蒙への関心は、大正十五年から関東軍参謀となった河本の影響ではないかとみられる。

もともと二葉会には、支那通と呼ばれた中国事情に精通した軍人が、河本大作、岡村寧次、板垣征四郎、土肥原賢二など、かなり含まれていた。彼らを磁場に中国、とりわけ満蒙に関心が集中することになってきたのである。

〈木曜会の発足〉

この二葉会にならって、昭和二年十一月頃、陸士二十二期の鈴木貞一参謀本部作戦課員を中心とする

少壮の中央参謀グループによって「木曜会」が組織される。（この時期は、昭和二年五月以降始まった蒋介石を中心とする中国の国民革命軍が中国統一を目指す軍事行動《いわゆる北伐》を開始し、二年四月に成立した田中内閣が居留民保護を名目に同年五月陸軍部隊を山東省に派遣《第一次山東出兵》した直後であった。）

参加者は十八人前後で、石原莞爾、根本博等陸士二十一期から二十四期が中心だった。ただ、十六期の永田、岡村、十七期の東条も会員となっている。永田は、二回ほどしか出席していないが、永田の腹心というべき東条がたびたび出席し、重要な役割を果たしている。

会合は、昭和二年十一月頃から四年四月まで、十二回開かれていたが、最も重要なのは、第五回会合である。

第五回会合は、昭和三年三月一日開かれ、参加者は、東条英機陸軍省軍事課員、鈴木貞一参謀本部作戦課員、根本博参謀本部支那課員ら九人である。中佐の東条を除き全員少佐・大尉で、ほとんど陸軍省・参謀本部など陸軍中央の少壮幕僚であった。

会合では、根本が「戦争発生の原因について」と題する報告が行われ、そのあと討論に移った。議論は多岐に及び、意見をまとめる形で東条が次のような趣旨の発言を行った。

「戦争準備は対ロシア（当時ソ連）を主題とし、その当面の目標を「満蒙に完全なる政治勢力を確立する」ことに置く。そのさい中国との戦争のための準備は、それほど大きな考慮を必要とせず、単に「資源獲得」を目的とする。」

と整理した。

また東条は、その理由として「将来の戦争は、一般に国家の生存のための戦争となる。アメリカは、その生存のためには南北アメリカ大陸で十分であり、アジアに本格的に軍事介入してこないだろう。」と付言した。

この発言に対して、完全な政治勢力を確立す

甲石地区 高橋 正之

るとは、「取る」ことを意味するのか、との質問があり、東条は「然り」と答えている。

その後、「二、三の質疑応答がなされ、最後に「判決」として次のような内容が申し合わされた。

「帝国自存のため、満蒙に完全なる政治勢力を確立するを要す。これがため国軍の戦争準備は対露戦争を主体とし、対支戦争準備は顧慮を要せず。ただし、本戦争の場合において、米国の参加を顧慮し、守備的準備を必要とす」（木曜会記事）

この「判決」は、三年十二月の第八回会合でも再確認され、木曜会の「結論」とされた。

この会合には、岡村も参加し積極的に発言している。永田は、五回、八回ともに参加していないが、腹心の東条の発言は、永田の構想に沿ったものだった。ここに満蒙領有方針が陸軍中央で初めて本格的に提起されたのである。（川田稔著「昭和陸軍全史I」、講談社現代新書刊より。写真は、写真①、永田鉄山、写真②、小畑敏四郎、写真③、岡村寧次である。いずれも同書より。）

（次回、両会が合流して一夕会を結成、陸軍を主導していく様子を記述する予定です。）



(写真①)



(写真③)

(写真②)